

図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力

1 図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力

思考力・判断力・表現力の概念及び図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力を、昨年度研究紀要において表1・2のように示した。前者に関しては、新学習指導要領の改訂の基本的な考え方に「思考力・判断力・表現力」等の育成の重視が示されるものの、それが何であるのかは明記されていないことから、まずその概念規定を行った。それを踏まえて、後者の図画工作・美術科におけるその概念規定を、視覚的感情イメージの構成創出であるという美術の本質から行った。

表1 思考力・判断力・表現力の概念

思考力	概念、像、形成要素などを操作して、それらの構成可能性を探る力。
判断力	構成された概念、像、形成要素などの候補群から、適切なものを選択する力。 このとき、選択の基準が明確な項目や命題の場合と、無意図的あるいは直観的な場合がある。
表現力	意識内の概念や像を様々な方法によって他者にも捉えられる形にする力。場面により、言語による言語的表現と像による非言語的表現、あるいは客観表現と美的表現に区分される。

表2 図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力

	表現	鑑賞
思考力	概念、像、造形要素を操作して、表現主題・表現内容・表現形式・表現方法等の構成可能性を探る力。	対象作品に関して表現主題・表現内容・表現形式・表現方法等の観点による解釈可能性を探る力。
判断力	可能性のある表現主題・表現内容・表現形式・表現方法等から適切なものを選択する力。	対象作品に関して適切な観点と解釈を選択する力。
表現力	表現主題から像を創造する力。	対象作品に関して感想・解釈・批評を口述あるいは記述する力。

このような力は、学び合いを通してより効果的に育成されよう。表現の活動で話し合い活動を通して表現主題を明確にしていくといった直接的なものはもちろん、ただ場と時間を共に制作をする行為にも教育的意義はある。図画工作・美術科で学び合いは昔から意識され実践されてきたことである。

2 図画工作・美術科における学びの活用

そもそも思考力・判断力・表現力は、学びをいかすという意図で導入されたものであろう。すなわち図画工作・美術科における学びの活用は、図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力が児童生徒に獲得されること、さらには美術分野以外においても一般化されることととらえる。

美術は視覚的感情イメージの構成創出であると前に記したが、この美的能力である「イメージ」能力はすべての構成創出の源となる。人は想像できないものは創造できない。想像できたものなら、技術や訓練等によって、創造しうる可能性がある。すなわち図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力は、美術分野に限らず他のすべての構成創出の源となる重要な能力である。しかも、大人になってからの獲得、特に自力獲得は困難であろう。知識や技術は大人になってからでも間に合うことがあるが、イメージ能力はそうはいかない。やはり子どものうちから育成されるべきである。

本学校園で実施されている小中一貫の図画工作・美術科授業において、より効果的に図画工作・美術科の思考力・判断力・表現力の育成がなされるであろう。

(共同研究者：島根大学教育学部芸術表現教育講座、有田 洋子)